

令和 6 年度愛国学園大学事業報告

1. 基本方針

本学における教育研究の質的向上を図り、更なる発展を目指すため、学生の確保と財政的基盤等の安定を図ることを最大の課題として、令和 3 年度からの主専攻・副専攻制への教育体制の継続及び入学者選抜方法の見直し、様々な取組により大学情報を発信してきたが、学生確保計画の達成には至らなかった。

2. 大学の管理・運営に関する重点事項

令和 2 年度からの中期計画（令和 2 年度～令和 6 年度）の実施状況を検証し、新たな中期計画（令和 7 年度～12 年度）を策定した。

3. 教育・研究等における重点事項

(1) 主専攻・副専攻による指導体制の点検・評価

学生のニーズや社会的な動向を踏まえ、ひいては学生定員の充足等に資するために行った主専攻・副専攻への教育体制の改編及び本体制での初年度入学学生が卒業学年となることから、これまでの教育指導の成果の検証を行った。その結果、学生の自主性や興味関心に基づく履修の必要性が指摘され、新たな教育課程の改定について検討を行い、令和 7 年度から実施することとした。

(2) 教員スタッフに関する重点事項

教員の定年退職等による欠員の補充について、前年度に公募を行い、新たに教授 2 人、講師 1 人の教員を採用した。また、非常勤講師 3 人についても公募による採用を行った。

(3) 教育・研究の推進

- ① 履修成績の 5 段階評価、キャップ制、GPA による成績評価等を適切に行い、各種の学業に関する規程等に基づき丁寧な指導を行い、学修の質を高めるとともに、学修成果の可視化に努めたところであり、FD として授業の公開や指導法等の意見交換、対学生授業評価アンケート等を実施した。
- ② 外国人留学生について、常に出席状況を注視するとともに大学全体で情報の共有を図り、休みがちな学生には自宅訪問や積極的な声掛けなども実施するなどきめ細かな指導を行い、退学者の防止を目指した在籍管理の強化に取り組んだ。
- ③ 全学漢字実力テスト（年 2 回）を引き続き実施し、学生に対して、日本語（国語）の運用能力、学修全般の理解力向上の取組を推進した。また、外国人留学生については、日本語の能力試験の受験を督促し、優秀者には表彰と報奨金の交付を行った。
- ④ 進路指導の充実を図り、日本人学生、外国人留学生に対する就職支援を強化するため、専門家による就職相談の実施、面接の実習など各種セミナーなどの体系的な開催、学内での会社説明会を新たに開催したほか、試行的にエージェントを追加するなどして、就職率の向上に努めた。
- ⑤ 授業でのフィールドワークの実施に当たり、地域の協力支援等が得られて、学生が積極的に学修に取り組んだ。
- ⑥ 学生がより充実した大学生活となるよう、大学祭やその他の課外活動・学生の企画した行事等についても、積極的な支援を行った。また、行事等の実施に際しては、社会貢献センターを中心に必要な調整を行い、地元自治体や関係機関と連携し、例えば学園祭と地元の産業まつりと連携するなど充実した取組となった。
- ⑦ 学生生活の支援の一環として、心理相談を外部の専門家及び内部の専門家が行った。
- ⑧ 教員の研究については、毎年発行している「人間文化研究紀要」への投稿や外部資金による研究費獲得を支援した。また、研究活動の実施に当たり、必要な研究倫理教

育についても教授会やその他の機会を活用して研修等を実施するなどの取組を行った。

4. 学生の募集活動に関する計画

- (1) 令和元年度策定の「年度別学生定員充足目標（令和2～6年度）」に基づき、効果的な広報活動を目指し、ホームページの改善、大学案内の見直し等に取り組み、高等学校等へ配付するほか、SNS等による広報、オープンキャンパスの開催、個別対応による特キャン（夜間開催を含む。）の実施、進学相談・施設見学の随時実施、内部校行事への参加、学校訪問の強化、外部の進学説明会への参加、受験産業を活用した広報、外国人留学生の出身国での直接選抜、出願時の提出書類の改善、Web出願などを検討・実施してきた。今年度は、前年度に創設したアドミッションセンターを中心として、引き続きこれらを全学的に強化・推進するとともに、新たにWeb広告を導入するなど、学生募集に注力したが、大変厳しい結果となった
- (2) 学生増を図るため、「社会人特別選抜」、国内の高等学校に在学する外国籍生徒を対象とした「外国籍生徒等特別選抜」の実施、多様な学生の入学を促進するため大学入学共通テストへの参加、また、4年の修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し卒業できる「長期履修制度」を活用した入学者選抜を引き続き推進するとともに、新たな学生募集のための方策として、学生負担の軽減、高等学校における「探究学習」の取組の成果を評価する新たな選抜方法について検討した。
- (3) 「年度別学生定員充足目標（令和2～6年度）」の期間が終了することから、現計画を検証し、新たな定員充足計画を策定した。
- (4) 令和5年3月に千葉県立八千代西高等学校と締結した高大連携事業に関する協定を踏まえ、教育研究活動に係る連携、各種講座への高校生への受入れ及び学生・生徒の交流活動を積極的に取り組むとともに、協定校の増に努め、これらの高等学校からの入学者の確保に努力した。また、前年度に引き続き高校生を主な対象とした公開講座（「愛大オープンカレッジ」）を夏休み期間中に開講し、本学の知名度のアップ及び入学者獲得に繋げる取組を行った。
- (5) 次年度に本学への入学が確定した高校生の入学後の指導の充実を図るため、本学教員が当該高等学校を訪問し担当教員等と意見交換する「ウェルカム・スチューデント」制度による学校訪問を実施するとともに、高等学校との良好な関係の構築に努めた。
- (6) 本学のブランド力の向上を目指し、高校生による地元千葉に関する取組を対象とした「ちば愛」探求コンテストに関する計画について必要な検討を行った。

5. 大学ガバナンスコードの検証

私立大学として独自性を発揮し、社会的責任を全うするため、大学の自主的な行動規範として、令和4年度に策定した本学ガバナンスコードについて、私立大学の改革の動向を踏まえて検証を行った。

6. 大学機関別認証評価評価結果への対応

令和5年度大学機関別認証評価報告書における収容定員に対する在学生比率の改善、学生相談室へのカウンセラーの委嘱、カリキュラムマップやカリキュラムツリー等の検討など、「改善を要する点」及び「参考意見」への対応について、全学的に取り組んだ。

7. 施設・設備の整備計画

施設・設備中期整備計画（令和2年度～6年度）を基本とし、計画的に修繕整備に取り組むとともに優先度を勘案しながら、1・2号館玄関ドアヒンジ及び1号館ブラインド等の交換、トイレの改修等の整備等を進めた。また、施設設備の検証を行い、次期整備計画の策定に取り組んだ。

8. 社会貢献の推進

- (1) 地域連携事業として、四街道市・四街道市教育委員会との共催により「市民大学講座

（専門課程）」（年 8 回）を開講したほか、四街道市主催の子供給食講座（よつつこキッチン）への学生・教職員のボランティア参加などにより、地域連携事業の支援を通じて、大学の活動や行事、研究成果等の紹介を行った。

(2) 地域連携及び高大連携等を一層推進し、大学の第 3 の機能を充実するために設置した社会貢献センターにおいて各種の活動に取り組んだ。

(3) 四街道市等の行政機関の政策策定に関する審議会等に学識経験者として教員を派遣し、地域の知的機関として貢献した。

(4) 撫子祭（大学祭）では、附属高等学校と連携を図り、資料展示や作品展示、音楽演奏等を実施した。また、同日開催の地域行事（四街道産業まつり）とも連携するほか、四街道市国際交流協会、地域活性化に取り組む地元商店等の参加も得て開催した。

(5) 大学施設の貸出について、教育機関等の要望も踏まえ、公益的事業等への貸出を行った。

(6) 高等学校教育における「探究」と結び付け、併せて知名度向上を図るため、愛国学園大学公開シンポジウム「千葉学から“ちば愛”へ」を開催した。